

## (12月の野菜の見通し)

品目	区分	入荷量(t)			キロ当たり単価(円)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比 見込 (%)	5ヵ年平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5ヵ年平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
だいこん		12,694	102	13,293	53	126	59	2	0.0	千葉、神奈川産中心の入荷で全体の約9割を占める。関東産地の生育は徐々に回復に向かっている。12月前半に遅れ分がずれ込み、中旬に下げ気配の見込み。徳島産は平年作で入荷は順調。全体の出荷量は前年をやや上回り、価格は前年を上回る見込み。
にんじん		9,517	92	9,441	80	150	94	-	-	千葉産中心の入荷で全体の約8割を占める。全体的に小振りで生育遅れは予想以上に回復していない。12月はLサイズも増量してくるが全般的に小振りの仕上がり。量的な不足感が強く、価格は前年を大きく上回る見込み。
はくさい		14,727	97	14,870	30	212	38	8	0.1	茨城産中心の入荷で全体の9割を占める。天候不順の影響がまだ残っており、全体的に小玉傾向で、病気による欠株等も散見されることから生産量は減。全体の入荷量は前年を下回り、価格は前年を大きく上回る見込み。
ほうれんそう		1,899	100	1,998	406	94	388	1	0.1	群馬、埼玉を中心とする関東産が市況をリードする。各地とも概ね生育は順調。年末の需要期に合わせた出荷ペースが見込まれ、価格は比較的落ち着いた価格帯での展開。全体の入荷量は前年並、価格は前年を下回る見込み。
キャベツ類		13,948	90	12,948	55	182	75	-	-	千葉、愛知産中心の入荷で全体の約8割を占める。作柄は産地によりまちまち。天候不順の影響がまだ残るため、12月の入荷量は前年を下回り、価格は平年を上回るペースで推移し、前年をかなり上回る見込み。
ねぎ		6,464	95	6,583	243	122	222	90	1.4	千葉、埼玉を中心とする関東産が市況をリードする。各産地とも作柄不良で、出荷は徐々に回復に向かうものの入荷量は前年を下回り、価格は前年を上回る見込み。
レタス類		7,383	95	7,821	205	100	215	-	-	静岡、香川、兵庫産中心の入荷で約6割を占める。入荷量は、急増はしないが旬が進むにつれ安定し、ほぼ前年をいくらか下回る程度まで回復する見込み。価格は前年並の見込み。
きゅうり		4,989	100	4,801	390	96	424	-	-	千葉を中心とする関東産の抑制ものに加え、高知、宮崎などの暖地産が市況をリードする。関東産の無加温物は切り上がりが早く群馬産は12月上旬に終了する見込み。それに続く西南暖地の生育は順調。全体の入荷量は前年並、価格は前年を下回る見込み。

(12月の野菜の見通し)

品目	区分	入荷量(t)			キロ当たり単価(円)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比 見込 (%)	5ヵ年平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5ヵ年平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
なす		1,548	100	1,508	403	100	413	-	-	高知産、福岡産中心の入荷で全体の約8割を占める。高地産は生育の遅れが依然見られるが出荷ペースは安定してきている。福岡産の長なすは11月下旬より入荷が増え平年並の出荷量が見込まれる。全体の入荷量は前年並、価格も前年並の予想。
トマト		5,373	100	5,007	330	103	378	7	0.1	愛知、熊本の暖産が市況をリードする。各産地とも11月下旬には出荷増の見込み。12月の全体の入荷量は前年並、価格は下げ基調となり前年をやや上回る程度に落ち着く見込み。
ピーマン		1,400	100	1,589	485	98	420	-	-	茨城、宮崎産中心で全体の約7割を占める。夏場の猛暑で初期生育に影響を受けた茨城産秋作はほぼ終了し、その後は生育順調はハウス物の出荷が増えてくる。全体の入荷は前年並、価格は前年をやや下回る見込み。
ばれいしょ		7,892	95	7,829	134	110	107	-	-	北海道産中心の入荷で市況をリードする。収量は各産地とも大幅減。空洞果の発生も多く、歩留まり低下の懸念もある。入荷量は前年より少なく、価格は前年を上回る見込み。
たまねぎ		10,206	90	10,312	113	124	89	-	-	北海道中心の入荷で全体の約9割を占める。貯蔵量は少なく、年内販売は例年より早く切れ上がる見込み。全体の入荷量は前年を下回り、価格は前年を上回る見込み。